

熊谷東中学校だより
第3号

東雲

令和2年6月30日発行

<学校教育目標>

志高く 心豊かな生徒
主体的に学び、考える生徒
たくましく生きる生徒

<目指す学校像>

生徒が「日本一だ」と誇りをもって
卒業することができる学校

4つの実践
○朝ごはんをしっかり食べる。
○呼ばれたら「はい」と元氣よく返事をする。
○「ありがとう」「ごめんなさい」と言う。
○友だちをたくさんつくる。

3減運動
テレビの時間を減らします。
ゲームの時間を減らします。
スマートフォン・携帯電話の時間を減らします。

スマホ使い方宣言
自分や周りの人の情報を守ります。
他人を傷つけない。
様々な危険から情報を守る。正確な判断をします。
インターネットにつながる機器にはフィルタリングを有効にしています。

『育てる』ということ

熊谷東中学校 校長 伊藤 幸男

助けを求めても大人たちに見すごされ、親から虐待され続けた末に亡くなった千葉県栗原心愛さんの事件。真冬の深夜に駆けつけた救急隊員は、畳1枚ほどの浴室の洗い場で、仰向けに倒れていた彼女を発見しました。着ていたTシャツと長ズボンも、髪も、全身がびしょ濡れでした。残念ながら心愛さんは、大人にかまっても育ててもらえなかったのです。

この事件は『育てる』ことの意義について世間に問うている気がしてなりません。植物や動物には、花を咲かせたり、果実を結ばせたり、飼い主と可能な限り意思の疎通を図らせようとコミュニケーションの方法を教えます。また、人については、教えたり、時には叱ったり考えさせたり、実際にやらせたりして育てます。しかし、育てることは充実感や達成感がある一方で、大変むずかしさも伴うため挫折してしまうケースも多いと感じます。その結果、心愛さんのように「虐待」「放棄」に至ることもあるのです。

ノーベル医学・生理学賞を受賞した京都大学の山中伸弥博士と、同じ年で「心友」だった元ラグビー日本代表の平尾誠二さんとのつながりをテレビ番組で観たことがありました。平尾さんは癌との闘病の末、53歳の若さで4年前に亡くなりました。

学生時代にラグビーに取り組んでいた山中博士は、高校時代からラグビー界のスターだった平尾さんにずっと憧れていたそうです。近年、二人は顔を会わせる機会があり、お互いを尊敬し合える親友にまでになったそうです。しかし、ある日、山中博士は平尾さんから病に侵されていること、しかも病名を告知され愕然としますが、その後約1年間、医学的な支援を施しながら一緒に闘いました。告別式で弔辞を読んだ山中博士は、平尾さんが教えてくれたこととして「人を叱るときの4つの心得」をあげています。それらは、

<人を叱るときの4つの心得>

ア「プレー（行動）はしかっても人格は責めない」
ウ「他人と比較しない」

イ「あとで必ずフォローする。」
エ「長時間叱らない」

というものです。なるほどとは思っても、これらを実践することはなかなか難しいものです。まず、人は「怒ること」と「叱ること」を同じことと思っています。広辞苑には、「怒る」は「いかる、腹を立てる」、「叱る」は「声をあらだてて欠点をとがめる」と記されています。基本的にこの2つは異なるものなのです。また、人を叱った際、その受け止めの程度（基準）は、叱られている人の感じ方によって様々だという点を私たちは忘れがちです。きっと平尾さんはこれらの4つの心得を基本として、選手や部下一人ひとりがどんな捉え方をしているのかを常に細かく観察しながら考えていたのだと想像します。

熊谷東中学校の441名の生徒たちは、家庭、地域と学校が一体となって育てていただいています。本校職員も、平尾さんの4つの心得の上に立ち、生徒一人ひとりの状況に可能な限り応じながら最適解を得られるよう今後も取り組んでいく所存です。引き続き、保護者や地域の皆様の御支援をどうぞよろしくお願いたします。

<お知らせ> ICT環境調査結果報告

先日のICT環境調査へのご協力ありがとうございました。本校では、多くの家庭にインターネット接続できる環境があること、4人に3人がインターネットを通して学習を行ったことがわかりました。国の構想（GIGAスクール構想）からも、今後5年間でこのような学習形態が進んでいくことが予想されます。

今回、東中では、Youtube向けに東中チャンネルを作り、授業動画の作成・アップロードを積極的に行いました。今後を先取りした取組となるのかもしれませんが、ぜひ、ご家庭でも一度web版くまびスクールにアクセスしてみてください。今学習している部分の動画がありますので、よい復習になると思います。

熊谷東中歳時記（6月）

学校本格再開・・・ようやくクラス全員がそろいました。

6月1日からクラスを3分割して登校する形で学校を再開しました。状況をみながら、通常授業に向けて少しずつ準備を進めてきましたが、22日からようやくクラス全員がそろって授業を開始することができました。通常より1年半遅い学級開きとなります。ここから新しい人間関係を築き、みんなでよいクラスを作っていきます。

夏休みまで、残り1か月。これまでの分を取り返すためにも、目標を持ち、その実現に向け、一日一日を大切に過ごしてください。



部活動再開、1年生入部そして3年生引退です。

3年生にとっては、本当に残念ですが、最後の学総が中止となってしまいました。大会に向け、臨時休業中もトレーニングを続けていた人もいます。勝つにせよ負けるにせよ、大会で自分たちの力を出し切ってほしかったところですが、再開とともに引退について考えなくてはならない状況となってしまいました。

このような状況から、各部の部長と生徒会役員で引退について話し合いを行い、東中では、7/3・4・5を部活動引退の日と決めました。7/1には、1年生が入部します。わずかな日数ではありますが、3学年そろっての部活動を実施し、後輩に部活動のバトンを渡してもらえればと思います。

23日には、3年生が1年生に向けて、部活動の説明を行いました、どの部も一生懸命に部のよさをアピールしていました。現在、仮入部中ですが、1年生には、これから2年間、しっかりとがんばれる部を選んでほしいと思います。短い夏休みとはいえ、夏場の練習は厳しいです。まずは体づくりから取り組みましょう。以下に、29日に実施した1年生の部活動入部希望調査の状況を紹介します。

陸上競技	17	男子バスケ	9	剣道	7
ラグビー	2	女子バスケ	2	合唱	7
サッカー	7	男子卓球	3	美術	9
野球	13	女子卓球	15	パソコン	7
ソフトボール	6	男子バレー	6	手芸調理	5
男子テニス	12	女子バレー	3	クラブチーム等	3
女子テニス	16	柔道	2		



教育実習が始まりました。

29日から、3名が実習を行っています。新型コロナウイルスの影響で、予定よりも一月半遅れの受け入れです。この3週間で、よい経験を積んでほしいと思います。生徒のみなさんも、積極的に声をかけてください。

- <実習生> ○桜井先生（保健体育） 1年2組
○菊池先生（保健・養護） 2年4組
○長島先生（保健体育） 3年3組



テストで力をつける。

26日には埼玉県学力・学習状況調査、29日には3年生の第1回実力テストが行われました。また、7月10日には中間テストが行われます。テストでは、点数も大事ですが、準備と見直し（振り返り）も点数と同じかそれ以上に大切です。点数は多少の運不運、体調の良し悪し、得意不得意で前後することがあります。しかし、テストに向けて努力を続ける、同じ間違いを繰り返さないために見直しを行うといった姿勢や意識を持つことは、これからの人生において、点数よりもずっと大きな影響を与えることになります。東中のみなさんには、ぜひ「テストを通して力をつけられる」生徒になってほしいと思います。